

# 都市建設委員会行政視察報告書

令和7年9月30日

つくば市議会議長 黒田 健祐 様

都市建設委員長 高野 文男  
(公 印 省 略)

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、報告します。

## 記

### 1 視察期間

令和7年8月6日（水）から令和7年8月8日（金）まで

### 2 視察先及び視察事項

#### (1) 東京都葛飾区

・住まいの防犯対策助成金について

#### (2) 北海道北広島市

・スポーツ施設を核としたまちづくりについて

#### (3) 北海道江別市

・上水道の広域化について

### 3 視察目的

本委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市の都市建設行政の発展に寄与する。

### 4 参加者 計9名（委員7名、議会局(随員)2名)

委員 長 高野 文男

委員 川田 青星、榊原 アリーゼ、市原 琢己、小久保 貴史、  
五頭 泰誠、塚本 洋二

議会 局 大坪 哲也、藤代 拓

## 5 研修内容

### (1) 東京都葛飾区【8月6日（水）説明：葛飾区地域振興部危機管理課 生活安全担当課長】

#### 「住まいの防犯対策助成金について」

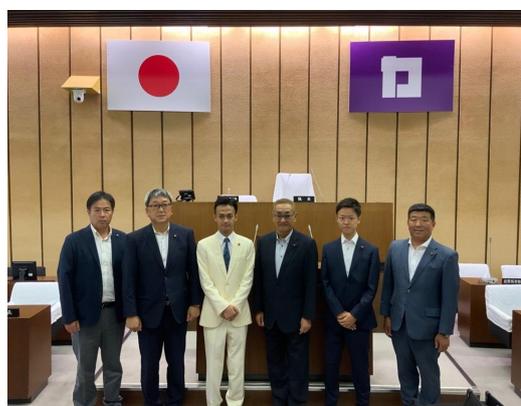
葛飾区では、住まいの防犯対策助成金について行政視察を行い、担当者から詳細な説明を受けた。

葛飾区では、昨年11月に区内で発生した緊縛強盗事件をきっかけとして、区民の防犯意識が急激に高まりを見せており、それに伴い防犯関連に係る区の施策について、区民からの注目度が増加している。

「葛飾区住まいの防犯対策助成金」は、葛飾区が令和5年から実施している助成金制度で、区民が、防犯カメラや録画機能付きイヤホン等の防犯設備を住宅に設置した際に、最大6万円まで助成する制度である。また、同様の施策として、共同住宅への防犯設備整備助成金制度も実施しており、区内の共同住宅の所有者等が当該施設内共用部に防犯カメラを整備した際に市から助成を行っている。

これら区の防犯対策制度については、昨年の事件を契機に申請数が急増している状態にある。令和6年度の住まいの防犯対策助成金の申請数は3,785件、助成金額は約9,400万円であり、共同住宅向け防犯設備助成金は、令和6年度の申請数は50件、助成金額は約1,400万円であった。令和7年度住まいの防犯対策助成金の当初予算は3,000万円で、令和6年度の約1億円からは減額になっているが、令和7年当初の申請数の急激な増加を受け、補正予算による措置を検討しているとのことであった。

その他、葛飾区では防犯対策の一環として、警察と連携した施策にも取り組んでおり、葛飾区出身の著名な漫画家との協力の下、振り込め詐欺防止パンフレットを作成するなど周知活動を行い、区内の防犯意識向上を図っている。



(2) 北海道北広島市【8月7日（木）説明：北広島市経済部ボールパーク連携  
推進室ボールパーク連携推進課】  
「スポーツ施設を核としたまちづくりについて」

北広島市では、スポーツ施設を核としたまちづくりについての説明を担当者から受けた。

北広島市は、北広島駅前の約 32ha の土地について長年総合運動公園予定地としていたが、財政負担等を理由として具体的な計画着手には至らず、当該土地の利活用が長年の課題となっていた。このことについて、北広島市では、平成 14 年に北海道日本ハムファイターズと関わりを持ったことをきっかけとして、市と球団で新球場について意見交換を行った。その後、平成 28 年の新球場（ボールパーク）構想報道を経て、北広島市が球団に対して誘致活動を続けた結果、平成 30 年に当該の土地への新球場建設が正式に決定した。令和 5 年に北海道日本ハムファイターズの本拠地球場である「ES CON FIELD HOKKAIDO」が竣工し、同年 3 月から運用を開始している。

球場を含む全体の事業用地「F ビレッジ」は、2042 年まで 5 段階の期間が設定された長期エリア計画に基づいて開発が進められており、現在では球場のほか分譲マンションや老人ホームを配置している。今後も、JR 新駅や複合交流拠点施設が F ビレッジ内に整備される予定である。

総合運動公園予定地は、元々市街化調整区域であり、開発に当たっては市街化区域への編入の手続きが必要であった。北海道と調整を行った結果、通常の人口の将来推計によらない、北海道全体の地域活性化効果を見込んだ上での市街化区域編入を実現し、開発が可能となった。

現在では、国をオブザーバーに含んだ広域連携体制を構築し、地域の魅力を生かした出店や地域 PR を行っている。加えて、公式試合への学校招待や球場での成人式実施など、市と球団によるまちづくりの推進も実施しており、官民連携による地域活性化施策を進めている。



(3) 北海道江別市【8月8日（金）説明：江別市水道部水道整備課参事】  
「上水道の広域化について」

江別市では、上水道の広域化について担当者から説明を受けた。

江別市の水源は大きく2つあり、市東側にある市所有の上江別浄水場と、市南側にある石狩東部広域水道企業の漁川浄水場及び千歳川浄水場からの受水の2系統からなる。上江別浄水場は、千歳川の表流水を取水しており1日当たり2万5,700トン、漁川浄水場及び千歳川浄水場からは、2万100トンの受水が可能となっている。

石狩東部広域水道企業団は、昭和40年代の水需要急増を背景に、昭和49年度に江別市、恵庭市、千歳市及び広島町（現北広島市）の4市を中心に組織された団体であり、現在では由仁町及び長幌上水道企業団を加えた4市1町1企業団への給水を行っている。また、平成20年度からは、隣接する大都市の札幌市水道局と江別市水道局の人事交流が始まっており、平成27年には両者によって基本協定が締結された。災害時の相互応援制度や、江別市から札幌市への研修派遣もこの協定を基に実施している。

江別市上水道の将来見通しとしては、水需要の減少に伴う給水収益の減少（現状の6割程度）や管路の経年化及び施設の耐震化の必要による更新需要の増大等を要因とした経営の悪化が見込まれている状況である。これを受け、江別市では、北海道水道広域連携推進プランの下道内各地区において広域連携拡大についてシミュレーションしているが、道内各地区の水道事業者で構成される「地区別検討会議」は令和5年度末で解散となっている。現在、江別市では、水道広域連携プランを「千歳地域における広域連携に係る意見交換会」において進めるとし、引き続き検討しているところである。



## 【行政視察所感欄】

この度、都市建設委員会では、東京都葛飾区、北海道北広島市及び江別市の3市の取組について視察を行いました。

1日目、葛飾区において実施した「住まいの防犯対策助成金」に関する行政視察では、区からの説明を通じて、区民の安全を守るための施策が、地域の実情に即して着実に展開されていることを確認できました。

何より近年、頻発している空き巣や強盗事件を契機として、地域社会における安全確保の重要性が更に高まっており、行政としても迅速かつ的確な対応が求められる状況にあります。そのような中で、葛飾区が令和5年度より開始した「住まいの防犯対策助成金」制度は、個人住宅向けの防犯設備の整備を促進するもので、共同住宅への防犯設備整備助成金制度とともに、区民の安心感の醸成に大きく寄与しているようです。

また、令和6年度には「住まいの防犯対策助成金」の申請件数が大幅に増加しており、助成金額も約1億円に達するなど、制度への関心の高さとニーズの強さが顕著に表れています。令和7年度当初予算は減額となっているものの、申請の急増を受けて補正予算による対応を検討している点は、柔軟かつ実効性のある行政運営の姿勢として大いに評価すべき内容でした。

ほかにも、警察との連携や著名人との協働による啓発活動など、ハード・ソフト両面からの防犯対策が展開されており、地域の安全を守る事例として大変優れた事業であり、つくば市においても防犯対策への補助事業について積極的に取り組むべきであると感じました。

2日目の、北広島市で取り組まれている「スポーツ施設を核としたまちづくり」についての説明では、地域の魅力を活かしながら官民が連携して新しいまちの形をつくっていく姿勢に大変感銘を受けました。

北広島市では、活用方法が長年の課題となっていた総合運動公園予定地に、北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールド北海道」を建設することが決まり、令和5年には無事に竣工・運用開始となりました。この球場を中心とした「Fビレッジ」については、今後20年近くにわたる長期的な開発計画が進められており、既に分譲マンションや老人ホームなども整備されています。今後は新駅や交流施設の整備も予定されており、市民の暮らしと人々の交流が融合した魅力的なエリアになっていくことが期待されます。

また、もともと市街化調整区域だったこの土地について、北海道全体の活性化につながるという視点から市街化区域への編入が認められたことは、未来志向の柔軟な都市計画の対応であり非常に参考になるものでした。

つくば市においても、未利用地の活用や地域資源を活かしたまちづくりを考える上で、北広島市の官民連携の事例は大変参考になるものであり、今後の施策検討に活かしていきたいと思えます。

3日目、江別市において、上水道の広域化に関する取組について、説明を受けました。地域の水道事業を取り巻く現状や課題、そして将来に向けた方向性について、具体的な事例を交えて学ぶことができました。

江別市の水道は、大きく2つの水源から成り立っており、1つは市の東側にある上江別浄水場で千歳川の表流水を活用しており、もう1つは南側に位置する石狩東部広域水道企業団からの受水です。それぞれの浄水場から安定した水量が供給されており、地域の暮らしを支える、重要なインフラとして機能をしています。

また、昭和40年代の水需要の高まりを背景に、江別市を含む4市1町1企業団に給水を行う「石狩東部広域水道企業団」が設立され、現在は札幌市との人事交流や災害時の相互応援、研修派遣など自治体間の連携も進んでおり、地域全体で支え合う仕組みが築かれていることに感心しました。

一方で、江別市の水道事業は、水需要の減少や施設の老朽化、耐震化への対応など、今後の経営面での課題も抱えており、北海道水道広域連携推進プランのもと、広域連携の可能性についてシミュレーションをしています。令和5年度末に「地区別検討会議」を解散し、現在では「千歳地域における広域連携に係る意見交換会」を通じて、水道事業の広域連携について引き続き検討が進めているとのことでした。

今回の行政視察を通じて、水道事業の持続性を高めるためには、水道事業そのものの持続可能性や、地域の人口動向、財政状況などを踏まえ、単独事業とするか広域事業とするか、適切な運営形態を選択することが重要であることを学びました。また、つくば市の上下水道事業が単独経営で持続可能な体制を維持していることは、全国的に見ても恵まれた状況であることを、改めて認識する機会となりました。

都市建設委員長 高野 文男